

特242

362

國民學校令並二關係法規集

—日本教育新教科書學校管理法 隨伴—

東京 培風館



0042673000

0042673-000

特242-362

国民学校令並二關係法規集

培風館

昭和16

AHD

特242
362

目次

國民學校令	一
國民學校令施行規則	九
幼稚園令	四〇
幼稚園令施行規則	四二
青年學校令	五〇
青年學校令施行規則	五七

國民學校令

昭和十六年二月二十八日
勅令第四百四十八號

第一章 目的

第一條 國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二章 課程及編制

第二條 國民學校ニ初等科及高等科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ初等科又ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第三條 初等科ハ修業年限ハ六年トシ高等科ノ修業年限ハ二年トス

第四條 國民學校ノ教科ハ初等科及高等科ヲ通シ國民科、理數科、體鍊科及藝能科トシ高等科ニ在リテハ實業科ヲ加フ

國民科ハ之ヲ分テ修身、國語、國史及地理ノ科目トス

理數科ハ之ヲ分テ算數及理科ノ科目トス體鍊科ハ之ヲ分テ體操及武道ノ科目トス但シ女兒ニ付テハ武道ヲ缺クコトヲ得

藝能科ハ之ヲ分テ音樂、習字、圖畫及工作ノ科目トシ初等科ノ女兒ニ付テハ裁縫ノ科目ヲ、高等科ノ女兒ニ付テハ家事及裁縫ノ科目ヲ加フ

實業科ハ之ヲ分テ農業、工業、商業又ハ水産ノ科目トス

第五項ニ掲ケル科目ノ外高等科ニ於テハ外國語其ノ他必要ナル科目ヲ設クルコトヲ得

第五條 國民學校ニ初等科及高等科ヲ置ク者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

特修科ヲ設置シ又ハ廢止セントスルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

特修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 國民學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルベシ但シ郷土ニ關スル圖書、歌詞、樂譜等ニ關シ

文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 國民學校ノ教則及編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就學



第八條 保護者（兒童ニ對シ親權ヲ行フ者、親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ以下同ジ）ハ兒童ノ滿六歳ニ達シタル日ノ翌日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヨリ滿十四歳ニ達シタル日ノ屬スル學年ノ終迄之ヲ國民學校ニ就學セシムルノ義務ヲ負フ

第九條 前條ノ規定ニ依リ就學セシメラルベキ兒童（學齡兒童ト稱ス以下同ジ）ノ瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

第十條 第二十八條ノ規定ニ依リ國民學校設置ノ義務ヲ免ゼラレタル區域内ノ學齡兒童ノ保護者ハ第八條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第十一條 學齡兒童國民學校以外ノ學校ニ於テ國民學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムルトキハ第八條ニ規定スル保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ其ノ期間國民學校ニ就學スルモノト看做ス

前項ノ課程ノ認定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 學齡兒童ヲ使用スル者ハ其ノ使用ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨グルコトヲ得ズ

第十三條 國民學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認ムル兒童ノ國民學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第十四條 兒童ニシテ其ノ年齢就學ノ始期ニ達セザルモノハ之ヲ國民學校ニ入學セシムルコトヲ得ズ

第四章 職員

第十五條 國民學校ニハ學校長及訓導ヲ置クベシ

國民學校ニハ教頭、養護訓導及准訓導ヲ置クコトヲ得

第十六條 學校長及教頭ハ其ノ學校ノ訓導ノ中ヨリ之ヲ補ス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

教頭ハ學校長ヲ輔佐シ校務ヲ掌ル

第十七條 訓導及養護訓導ハ任命官ノ待遇トス但シ學校長又ハ教頭タル訓導ハ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ兒童ノ教育ヲ掌ル

養護訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ兒童ノ養護ヲ掌ル

准訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ訓導ノ職務ヲ助ク

第十八條 訓導及准訓導ハ國民學校教員免許狀ヲ有スル者タルベシ

養護訓導ハ女子ニシテ國民學校養護訓導免許狀ヲ有スルモノタルベシ

教員免許狀ハ師範學校ヲ卒業シ又ハ訓導若ハ准訓導ノ檢定ニ合格シタル者ニ地方長官之ヲ授與ス

養護訓導免許狀ハ養護訓導ノ檢定ニ合格シタル者ニ地方長官之ヲ授與ス

前二項ノ檢定ヲ施行スル爲道府縣ニ國民學校教員檢定委員會ヲ置ク

國民學校教員檢定委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

教員免許狀及養護訓導免許狀其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十九條 特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ國民學校教員免許狀ヲ有セザル者ヲシテ准訓導ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十條 國民學校職員ハ教育上必要アリト認ムルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ズ

第二十一條 國民學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ教員免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

教員免許狀ヲ有スル者不正ノ行爲其ノ他教員タルベキ體面ヲ汚辱スルノ行爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣又ハ地方長官ニ於テ其ノ教員免許狀ヲ褫奪ス

前二項ノ規定ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル者ニ之ヲ準用ス

第二十二條 地方長官ニ於テ行ヒタル國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ノ褫奪ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十三條 准訓導及第十九條ノ規定ニ依リ准訓導ノ職務ヲ行フ者ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 設置

第二十四條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ必要ナル國民學校ヲ設置スベシ

第二十五條 地方長官ハ町村ガ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ國民學校設置ノ爲其ノ町村ト他ノ市町村トノ學校組合ヲ設クベシ

- 一 町村ノ資力ガ國民學校ノ經費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ
- 二 町村ニ於テ學齡兒童ノ數一國民學校ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一國民學校ヲ構成スルニ足ルベキ數ヲ得ルコト能ハザルトキ

地方長官ハ市町村ノ一部ニシテ前項第二號ノ事情アルモノガ其ノ市町村ノ國民學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルベシ

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケントスルトキハ組合規約ヲ定メ關係市町村ノ意見ヲ聞クベシ組合規約ヲ變更シ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ組合ヲ解カントスルトキ亦同ジ

第二十六條 地方長官ハ一市町村ガ國民學校ヲ設置スルニ比シ著シク優等ナル國民學校ヲ設置シ得ベシト認ムルトキハ國民學校設置ノ爲市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第二號ノ事情アリト認ムルトキハ國民學校ノ設置ニ代ヘ其ノ町村ヲシテ學齡兒童ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ委託セシムルコトヲ得

地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ第二十五條第一項第二號ノ事情アルモノガ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ國民學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ關係市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ意見ヲ聞クベシ

第二十八條 地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第一號ノ事情アルモノ同項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ム

ルトキハ其ノ町村ヲシテ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第二號ノ事情アルモノ同項、第二十七條第一項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ其ノ全部又ハ一部ニ關シ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニ付第二十五條第二項又ハ第二十七條第二項ノ事情アルモノ同項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

第二十九條 國民學校ノ校數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムベシ

第六章 設備

第三十條 國民學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フベシ

第三十一條 校舍、校地、校具及體操場ハ國民學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ非常變災ノ場合又ハ教育、兵事、産業、衛生、慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 國民學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ地方長官之ヲ定ム

第七章 經費負擔及授業料

第三十三條 國民學校ノ經費ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス兒童教育事務委託ニ關スル經費ニ付亦同ジ

第三十四條 地方長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ北海道地方費又ハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フベシ

- 一 町村ニ付第二十五條第一項第一號ノ事情アルモノ同項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザルトキ
- 二 町村學校組合ノ資力ガ國民學校ノ經費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ又ハ市町村學校組合若ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力ガ其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘザルトキ
- 三 町村又ハ町村學校組合ノ資力ガ兒童教育事務委託ニ關スル經費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ

地方長官前項ノ規定ニ依ル認定ヲ爲サントスルトキハ北海道參事會又ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クベシ
第三十五條 訓導、養護訓導及准訓導ノ檢定並ニ國民學校教員免許狀及國民學校養護訓導免許狀ニ關スル經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第三十六條 國民學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ズ但シ特修科ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ國民學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

授業料ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ收入トス
授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第三十七條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國民學校ニ關スル教育事務ヲ管掌シ國民學校ヲ管理ス

第三十八條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ國民學校ニ關スル教育事務ノ爲市制第八十三條若ハ町村制第六十九條ノ規定又ハ其ノ準用規定ニ依リ學務委員ヲ置クベシ此ノ場合ニ於テハ市町村會、市町村學校組合又ハ町村學校組合會ノ議決ニ依ルコトヲ要セズ

學務委員ニハ國民學校職員ヲ加フベシ

委員中國民學校職員ヨリ出ヅル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第三十九條 學務委員ノ職務其ノ他ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十條 國民學校職員ノ執行スル國民學校ニ關スル教育事務ハ地方長官之ヲ監督ス

第九章 雜 則

第四十一條 町村組合ニシテ其ノ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合會ハ之ヲ町村會ト看做ス

第四十二條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テハ本令中町村、町村組合、町村吏員、町村組合吏員、町村會及町村組合會ニ關スル規定ハ其ノ地域ニ於ケル此等ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第三十八條 第一項中町村制第六十九條トアルハ前項ノ地域ニ於テハ北海道一級町村制第一條又ハ北海道二級町村制第七十二條トス

第一項ノ地域ニ於テ本令ニ依リ難キ事項ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四十三條 市町村ハ其ノ負擔ヲ以テ國民學校ニ類スル各種學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ國民學校ニ類スル各種學校ヲ設置スルコトヲ得

第四十四條 前條ノ國民學校ニ類スル各種學校ノ設置及廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

國民學校ニ類スル各種學校ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十五條 國民學校ニ非ザル學校ハ國民學校ト稱スルコトヲ得ズ但シ官立又ハ道府縣立ノ學校ニ於テ國民學校ノ課程ニ相當スル課程ヲ履修セシムル部分ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第四十六條 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年四月一日以前ニ出生シタル兒童ヲ就學セシムベキ期間ニ付テハ第八條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

第四十七條 市町村立小學校長及教員名稱及待遇、市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程及明治二十七年勅令第十一號ハ之ヲ廢止ス

第四十八條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立ノ尋常小學校、高等小學校及尋常高等小學校ハ夫々本令ニ依ル初等科ノミヲ置ク國民學校、高等科ノミヲ置ク國民學校並ニ初等科及高等科ヲ置ク國民學校トス

第四十九條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立ノ高等小學校及尋常高等小學校高等科ノ第三學年ハ本令ニ依ル特修科トス

第五十條 尋常小學校ヲ卒業シタル者、高等小學校第一學年ヲ修了シタル者及修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シ又ハ修業年限三箇年ノ高等小學校第二學年ヲ修了シタル者ハ夫々之ヲ國民學校初等科ヲ修了シタル者、國民學校高等科第一學年ヲ修了シタル者及國民學校高等科ヲ修了シタル者ト看做ス

第五十一條 本令施行ノ際現ニ存スル小學校令第十四條第二項ノ規定又ハ其ノ準用規定ニ依リ設ケタル市町村學校組合及

町村學校組合ハ之ヲ本令ニ依リ設ケタルモノト看做ス

第五十二條 本令施行ノ際現ニ存スル私立小學校ハ之ヲ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノト看做ス
本令施行ノ際現ニ學齡兒童ガ前項ノ學校ニシテ其ノ課程ニ付第十一條ノ規定ニ依ル認定ナキモノニ就學スルトキハ第八條ニ規定スル保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ其ノ期間國民學校ニ就學スルモノト看做ス

第五十三條 本令施行ノ際現ニ存スル小學校ニ類スル各種學校ニシテ私人ノ費用ヲ以テ設置セルモノハ之ヲ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノト看做ス

第五十四條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ之ヲ第十八條第三項ノ規定ニ依リ授與シタル國民學校教員免許狀ト看做ス

第五十五條 本令施行ノ際現ニ奏任官ノ待遇ヲ受クル市町村立小學校長ヲ兼ネシメラレタル市町村立小學校訓導ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ國民學校訓導ニ同待遇俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ市町村立小學校訓導ノ職ニ在ル者(前項ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク)別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ國民學校訓導ニ同俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ奏任官ノ待遇ヲ受クル市町村立小學校長ヲ兼ネシメラレタル市町村立小學校訓導ニシテ休職中ノモノ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ休職ノ儘國民學校訓導ニ同待遇俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトシ當該休職ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十六條 本令施行ノ際現ニ小學校令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ減俸中ノ者又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ業務停止中ノ者ノ當該減俸又ハ業務停止ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前小學校令第四十八條ノ規定ニ依リ懲戒又ハ業務停止ノ處分ヲ爲スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
第五十七條 小學校令第五十條ノ規定ニ依ル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ對スル訴願ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十八條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テ本令施行ノ際現ニ學務委員ノ職ニ在ル者ハ之ヲ本令ニ依ル學務委員ト看做ス

國民學校令施行規則

昭和十六年三月十四日
文部省令 第四號

第一章 教則及編制

第一節 總 則

第一條 國民學校ニ於テハ國民學校令第一條ノ旨趣ニ基キ左記事項ニ留意シテ兒童ヲ教育スベシ

一 教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シテ教育ノ全般ニ互リ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシムベシ

二 國民生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ體得セシメ情操ヲ醇化シ健全ナル心身ノ育成ニ力ムベシ

三 我が國文化ノ特質ヲ明ナラシムルト共ニ東亞及世界ノ大勢ニ付テ知ラシメ皇國ノ地位ト使命トノ自覺ニ導キ大國民タルノ資質ヲ啓培スルニ力ムベシ

四 心身ヲ一體トシテ教育シ教授、訓練、養護ノ分離ヲ避クベシ

五 各教科竝ニ科目ハ其ノ特色ヲ發揮セシムルト共ニ相互ノ關聯ヲ緊密ナラシメ之ヲ國民鍊成ノ一途ニ歸セシムベシ

六 儀式、學校行事等ヲ重シ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ舉グルニ力ムベシ

七 家庭及社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童ノ教育ヲ全カラシムルニ力ムベシ

八 教育ヲ國民ノ生活ニ即シテ具體的實際的ナラシムベシ

九 兒童心身ノ發達ニ留意シ男女ノ特性、個性、環境等ヲ顧慮シテ適切ナル教育ヲ施スベシ

十 兒童ノ興味ヲ喚起シ自修ノ習慣ヲ養フニ力ムベシ

第二節 教科及科目

第二條 國民科ハ我が國ノ道德、言語、歴史、國土國勢等ニ付テ習得セシメ特ニ國體ノ精華ヲ明ニシテ國民精神ヲ涵養シ皇國ノ使命ヲ自覺セシムルヲ以テ要旨トス

皇國ニ生レタル喜ヲ感ゼシメ敬神、奉公ノ眞義ヲ體得セシムベシ

我が國ノ歴史、國土ガ優秀ナル國民性ヲ育成シタル所以ヲ知ラシムルト共ニ我が國文化ノ特質ヲ明ニシテ其ノ創造發展ニカムルノ精神ヲ養フベシ

他教科ト相俟テテ政治、經濟、國防、海洋等ニ關スル事項ノ教授ニ留意スベシ

第三條 國民科修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ國民道德ノ實踐ヲ指導シ兒童ノ徳性ヲ養ヒ皇國ノ道義的的使命ヲ自覺セシムルモノトス

初等科ニ於テハ近易ナル實踐ノ指導ヨリ始メ道德的情操ヲ涵養シ具體的事實ニ即シテ國民道德ノ大要ヲ會得セシムベシ
高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層之ガ徹底ヲ期シ特ニ職分ヲ通ジテ公ニ奉ズルノ覺悟ヲ鞏固ナラシムベシ
女兒ニ對シテハ特ニ婦徳ノ涵養ニ留意スベシ

祭祀ノ意義ヲ明ニシ敬神ノ念ヲ涵養スルニカムベシ

我が國ノ政治、經濟及國防ガ國體ニ淵源スル所以ヲ會得セシメ立憲政治ノ精神、産業ト經濟トノ國家的意義及國防ノ本

義ヲ明ニシテ遵法、奉公ノ精神ヲ涵養スベシ

禮法ノ實踐ヲ指導シ禮ノ精神ヲ會得セシムルト共ニ公衆道德ニ付テ適切ナル指導ヲ爲シ品位ノ向上ニカムベシ

藝ヲ重ンジ善良ナル習慣ヲ養フニカムベシ

第四條 國民科國語ハ日常ノ國語ヲ習得セシメ其ノ理會力ト發表力トヲ養ヒ國民的思考感動ヲ通ジテ國民精神ヲ涵養スル

モノトス國語ニ於テハ讀ミ方綴リ方書キ方話シ方ヲ課スベシ

讀ミ方ニ於テハ正シク讀ム力ヲ養フト共ニ言語ノ練習ニ留意シ且正確ニ書寫スルコトヲ指導シ以テ讀解力ト發表力トヲ

陶冶スベシ

讀ミ方ハ兒童ノ生活ニ即スル言語ヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク兒童生

活ノ表現ニ出發シテ國民生活ノ諸相ニ展開セシムルト共ニ國語ノ標準トナリ創造力ヲ養フニ足ルモノタルベシ高等科ニ

於テハ著名ナル作品ヲ加フベシ

綴リ方ニ於テハ兒童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考へ方ニ付適正ナル指導ヲ爲シ平明ニ表現スルノ能ヲ得シムル

ト共ニ創造力ヲ養フベシ

書キ方ニ於テハ文字ヲ明確端正ニ書ク力ヲ養フベシ

話シ方ニ於テハ兒童ノ自由ナル發表ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聽キ方ノ練習ヲ爲スベシ

話シ方ハ主トシテ讀ミ方綴リ方等ニ於テ之ヲ指導シ各教科諸行事等ニ現ルル事項ヲ話題トシテ練習セシメ實際的效果ヲ

舉グルニカムベシ

發音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル國語ノ使用ニ習熟セシムベシ

他ノ教科及兒童ノ日常生活ニ於テモ醇正ナル國語ヲ使用セシムルコトニ留意スベシ

我が國語ノ特質ヲ知ラシメ國語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇化ニカムルノ精神ヲ養フベシ

第五條 國民科國史ハ我が國ノ歴史ニ付テ其ノ大要ヲ會得セシメ皇國ノ歴史的使命ヲ自覺セシムルモノトス

初等科ニ於テハ肇國ノ宏遠、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ鴻業、忠良賢哲ノ事蹟、舉國奉公ノ史實等ニ即シテ皇國發展ノ跡

ヲ知ラシムベシ

高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メ國運ノ隆昌、文化ノ發展ガ肇國ノ精神ノ顯現ナル所以ヲ會得セシムルト共ニ諸外國ト

ノ歴史的關係ヲ明ナラシムベシ

國史ノ時代の様相ニ留意シテ一貫セル肇國ノ精神ヲ具體的ニ感得把握セシムベシ

郷土ニ關係深キ史實ハ國史トノ關聯ニ留意シテ授クベシ

年表、時代表、地圖、標本、繪畫、映畫等ヲ利用シテ具體的直觀的ニ習得セシムベシ

第六條 國民科地理ハ我が國土國勢及諸外國ノ情勢ニ付テ其ノ大要ヲ會得セシメ國土愛護ノ精神ヲ養ヒ東亞及世界ニ於ケ

ル皇國ノ使命ヲ自覺セシムルモノトス

初等科ニ於テハ郷土ノ觀察ヨリ始メ我が國土及東亞ヲ中心トスル地理ノ大要ヲ授ケ我が國土ヲ正シク認識セシムベシ

高等科ニ於テハ世界地理及我が國勢ノ大要ヲ授クベシ

自然ト生活トノ關係ヲ具體的ニ考察セシメ特ニ我が國民生活ノ特質ヲ明ナラシムベシ

郷土ノ觀察ハ國史、理數科等ト相俟テ統一アル指導ヲ爲スベシ

簡易ナル見取圖、模型ノ製作等適當ナル地理的作業ヲ課スベシ

地圖、模型、圖表、標本、寫真、繪畫映畫等ヲ利用シテ具體的直觀的ニ習得セシムベシ

讀圖力ノ養成ニ力メ遠足、旅行其ノ他適當ナル機會ニ之ガ實地指導ヲ爲スベシ

第七條 理數科ハ通常ノ事物現象ヲ正確ニ考察シ處理スルノ能ヲ得シメ之ヲ生活上ノ實踐ニ導キ合理創造ノ精神ヲ涵養シ國運ノ發展ニ貢獻スルノ素地ニ培フヲ以テ要旨トス

科學ノ進歩ガ國家ノ興隆ニ貢獻スル所以ヲ理會セシムルト共ニ皇國ノ使命ニ鑑ミ文化創造ノ任務ヲ自覺セシムベシ數理及自然ノ理法ヲ自發的持久的ニ推究スル態度ヲ養フベシ

分析的論理的ニ考察スル力ヲ養フト共ニ全體直覺的ニ把握スル態度ヲ重ンズベシ

觀察實驗ヲ重ンシ實測、調査、作圖、工作等ノ作業ニ依リテ理會ヲ確實ナラシメ發見工夫ノ態度ヲ養フニカムベシ

國防ガ科學ノ進歩ニ負フ所大ナル所以ヲ知ラシメ國防ニ關スル常識ヲ養フベシ

第八條 理數科算數ハ數、量、形ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ數理的處理ニ習熟セシメ數理思想ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ數、量、形ニ關スル日常普通ノ知識、處理方法ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ産業、經濟、國防等ニ關シ須要ナル數量的事項ヲ授クベシ

計算ハ暗算、筆算、珠算ヲ用フベシ

日常生活ニ於ケル數量相互ノ關係ヲ明ナラシメ數理的考察ノ正確ヲ期スベシ

基礎的知識技能ノ反復練習ヲ重視シ應用自在ナラシムルニカムベシ

持久的ニ思考シ究明スルノ態度ヲ養フベシ

第九條 理數科理科ハ自然界ノ事物現象及自然ノ理法ト其ノ應用ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ科學的處理ノ方法ヲ會得セシメ科學的精神ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ兒童ノ環境ニ於ケル自然ノ觀察ヨリ始メ日常普通ノ自然物、自然現象、其ノ相互並ニ人生トノ關係、人體生理及自然ノ理法ト其ノ應用ニ關スル事項ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ産業、國防、災害防止、家事ニ關スル事項ヲモ授クベシ

自然ニ親シミ自然ヨリ直接ニ學ブノ態度ヲ養フベシ

植物ノ栽培、動物ノ飼育ヲ爲サシメ生物愛育ノ念ニ培フト共ニ繼續的ノ觀察實驗ニ依リテ持久的ニ研究スルノ態度ヲ養フベシ

實地ノ觀察ヲ重視スルト共ニ標本、模型、繪畫、映畫等ヲ利用シ理會ヲ助クベシ

人體生理ニ關聯シテ日常ノ衛生及國民保健ノ必要ナル所以ヲ知ラシメ體鍊科ト相俟テ其ノ實踐ニカメシムベシ

藝能科工作ト相俟テ機械器具ノ取扱ニ慣レシメ科學的技能ノ修練ニカメシムベシ

自然界ニ於ケル事物現象ノ全體關聯ノ理會ニ力メ進ンデ自然ノ妙趣ト恩惠トヲ感得セシムルニカムベシ

第十條 體鍊科ハ身體ヲ鍛鍊シ精神ヲ鍊磨シテ潤達剛健ナル心身ヲ育成シ獻身奉公ノ實踐力ニ培フヲ以テ要旨トス

躡、姿勢其ノ他訓練ノ效果ヲ日常生活ニ具現セシムルニカムベシ

特ニ兒童心身ノ發達、男女ノ特性ヲ顧慮シテ適切ナル指導ヲ爲スベシ

衛生養護ニ留意シ身體檢査ノ結果ヲ參酌シテ指導ノ適正ヲ期スベシ

強靱ナル體力ト旺盛ナル精神力トガ國力發展ノ根基ニシテ特ニ國防ニ必要ナル所以ヲ自覺セシムベシ

第十一條 體鍊科體操ハ體操、教練、遊戲競技及衛生ヲ課シ心身ノ健全ナル發達ヲ圖ルト共ニ團體訓練ヲ行ヒ規律ヲ守リ協同ヲ尙ブノ習慣ヲ養フモノトス

初等科ニ於テハ初ハ遊戲及簡易ナル全身運動ニ重キヲ置キ漸次複雜ナル運動ニ進ムト共ニ團體運動ヲ規律的ナラシムベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ男兒ニ在リテハ特ニ教練ヲ重ンズベシ

教練ニ於テハ特ニ團體訓練ヲ重ンシ規律協同ヲ尙ビ服從ノ精神ヲ涵養スルニカムベシ

遊戲競技ニ於テハ特ニ快活ナル心情、公明ナル態度ヲ養フニカムベシ

衛生ニ於テハ衛生上ノ基礎的訓練ヲ重ンシ漸次其ノ程度ヲ進メ救急看護等ヲモ加フベシ

教材ハ一部ノモノニ偏スルコトナク各種目相倚リテ體操ノ目的ヲ達成セシムベシ

兒童ヲシテ運動及衛生ノ必要ヲ理會セシメ進ンデ之ヲ實行スルノ習慣ニ導クベシ

第十二條 體鍊科武道ハ武道ノ簡易ナル基礎動作ヲ習得セシメ心身ヲ鍊磨シテ武道ノ精神ヲ涵養スルニ資セシムルモノトス

初等科ニ於テハ男兒ニ對シ劍道及柔道ヲ課スベシ
高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課スベシ

女兒ニ對シテハ雜刀ヲ課スルコトヲ得

心身ヲ一體トシテ訓練シ禮節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンズルノ氣風ヲ涵養スルニカムベシ

第十三條 藝能科ハ國民ニ須要ナル藝術技能ヲ修練セシメ情操ヲ醇化シ國民生活ノ充實ニ資セシムルヲ以テ要旨トス
技巧ニ流レズ精神ヲ訓練スルコトヲ重ンジ眞摯ナル態度ヲ養フベシ

我が國藝術技能ノ特質ヲ知ラシメ工夫創造ノ力ヲ養フニカムベシ

教材ハ成ルベク土地ノ情況ニ應ジ生活ノ實際ニ即シ且國民的情操ヲ陶冶ニ資スルモノタルベシ

日常生活ニ於ケル應用ヲ指導シ個性ノ伸長ニ留意スルト共ニ適宜共同作業ヲ課スベシ

躰ヲ重ンジ姿勢ニ留意シ用具、材料ニ付テ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第十四條 藝能科音樂ハ歌曲ヲ正シク歌唱シ音樂ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス

初等科ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ課シ適宜輪唱歌及重音唱歌ヲ加ヘ且音樂ヲ鑑賞セシムベシ又器樂ノ指導ヲ爲スコトヲ得

歌唱ニ即シテ適宜樂典ノ初歩ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課スベシ

歌詞及樂譜ハ國民的ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシメ徳性ノ涵養ニ資スルモノタルベシ

兒童ノ音樂的資質ヲ啓發シテ高雅ナル趣味ヲ涵養シ國民音樂創造ノ素地ヲラシムベシ

發音及聽音ノ練習ヲ重ンジ自然ノ發聲ニ依ル正シキ發音ヲ爲サシメ且音ノ高低、強弱、音色、律動、和音等ニ對シ鋭敏ナル聽覺ノ育成ニカムベシ

祭日祝日等ニ於ケル唱歌ニ付テハ周到ナル指導ヲ爲シ敬虔ノ念ヲ養ヒ愛國ノ精神ヲ昂揚スルニカムベシ

學校行事及團體的行動トノ關聯ニ留意スベシ

第十五條 藝能科習字ハ文字書寫ノ技能ヲ修練セシメ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス

初等科ニ於テハ「カナ」、楷書及行書ノ書法ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ更ニ草書ヲ加フベシ

國民科國語トノ關聯ニ留意シ生活ノ實際ニ適切ナルモノヲ選ブベシ

第十六條 藝能科圖畫ハ形象ヲ看取シ表現シ且作品ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化シ創造力ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ思想畫及寫生畫ヲ主トシ適宜臨畫、圖案及用器畫ヲ併セ課スベシ

高等科ニ於テハ寫生畫、圖案及用器畫ヲ主トシ臨畫及思想畫ヲ加ヘ適宜繪畫其ノ他ノ美術ヲ鑑賞セシムベシ

教材ハ生活ノ實際ニ即シ國民的情操ヲ陶冶ニ資スルモノタルベシ

我が國ノ傳統的技法ヲ尊重スルト共ニ東西ノ様式ノ別ニ拘泥スルコトナク廣ク之ヲ指導ノ上ニ活用シテ兒童ノ性能ヲ伸長スルニカムベシ

形體色彩ニ關スル基礎的知識ヲ授クベシ

第十七條 藝能科工作ハ物品ノ製作ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ機械ノ取扱ニ關スル常識ヲ養ヒ工夫考案ノ力ニ培フモノトス

初等科ニ於テハ紙、絲、布、粘土、セメント、竹、木、金屬等ノ材料ニ依ル工作ヲ課スベシ

高等科ニ於テハ木工、金工、セメント工、手藝(女兒)ヲ課スベシ

前項ノ外必要ニ應ジ其ノ他ノ工作、圖案及製圖ヲ課スルコトヲ得

機械器具ノ操作、分解、組立、修理等ニ付テ指導スベシ

實業科工業ヲ課スル場合ニハ適宜之ト併セ課スルコトヲ得

材料、工具等ニ關スル知識ノ大要ヲ授ケ材料ノ利用節約、工具ノ整理保存等ニ付テ指導スベシ

材料技法ノ進歩ニ注意シ之ヲ指導ノ上ニ活用シテ兒童ノ性能ヲ伸長スルニカムベシ

適宜共同製作ヲ課スベシ

第十八條 藝能科裁縫ハ普通ノ衣類ノ裁縫ニ習熟セシメ衣類ニ關スル常識ヲ養ヒ婦徳ノ涵養ニ資スルモノトス
初等科ニ於テハ運針、簡易ナル衣類ノ裁方、縫ヒ方及繕ヒ方ヲ課スベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課シ且材料ノ選擇、整理、保存其ノ他衣類ニ關スル常識ヲ養フベシ
家事ト相俟チ家ヲ齊ヘテ國ニ報ズルノ精神ヲ涵養スベシ
日常所用ノ材料ヲ用ヒ土地ノ情況ニ適切ナル指導ヲ爲シ利用節約ノ習慣、工夫考案ノ力ヲ養フニカムベシ
裁縫ヲ重ンジ姿勢態度ニ留意シ用具ノ適切ナル使用竝ニ整理ニ付テ訓練スベシ

第十九條 藝能科家事ハ我が國家家庭生活ニ於ケル女子ノ任務ヲ知ラシメ實務ヲ習得セシメ婦徳ノ涵養ニ資スルモノトス
祭事、敬老、育兒、食物、住居、衛生、看護、家計等ニ付家庭生活上日常須知ノ事項ヲ授クベシ

裁縫ト相俟チ家ヲ齊ヘテ國ニ報ズルノ精神ヲ涵養スベシ
國民科トノ關聯ニ留意シ禮法ヲ重ンジ我が國家家庭生活ニ於ケル醇風美俗ノ維持發揚ニカメシムベシ

理數科トノ關聯ニ留意シ家事ヲ科學的ニ處理スルノ態度ヲ養ヒ家庭生活ノ充實改善ニ付テ指導スベシ
娯ヲ重ンジ勤勞ノ習慣ヲ養ヒ利用節約、清潔整頓等ニ付テ訓練スベシ

第二十條 實業科ハ産業ノ一般ヲ理會セシメ農業、工業、商業又ハ水産ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シムルト共ニ勤勞ノ
習慣ヲ養ヒ産業ノ國家の使命ヲ自覺セシメ國運ノ發展ニ貢獻スルノ素地ニ培フヲ以テ要旨トス

地方ノ實情ニ應ジテ農業、工業、商業、水産ノ一科目又ハ數科目ヲ設クベシ尙一科目ニ他ノ科目ノ教材ヲ併セ課スルコ
トヲ得

職業指導ニ關シ必要ナル事項ヲ授クベシ
必要ニ應ジテ簡易ナル外國語ヲ課スルコトヲ得

我が國産業ノ情勢及特質ヲ明ニシ國運ノ發展ガ産業ニ負フ所大ナル所以ヲ知ラシメ産業ヲ通ジテ國ニ報ズルノ信念ヲ養
フベシ

産業ト國防トノ關聯ニ留意スベシ

實社會トノ關聯ヲ保テ實習訓練ヲ重ンズベシ

海外發展ニ關シテ適當ナル指導ヲ爲スベシ

第二十一條 實業科農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ其ノ實踐ヲ指導シ我が國農業ノ歴史的意義ヲ明ニシ農ヲ
尙ブノ精神ヲ養フモノトス
農業及林業ノ一般ニ付地方ノ實情ヲ考慮シテ適切ナル事項ヲ授クベシ
實習ニ依リ心身ヲ鍛鍊シ國土自然ニ對スル報恩感謝ノ念ヲ養フベシ

農山村ノ經濟生活ヲ理會セシメ其ノ振興ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スベシ
第二十二條 實業科工業ハ工業ノ大要ヲ理會セシメ其ノ一部ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ其ノ實踐ヲ指導シ工夫考案
ノ力ヲ養フモノトス

地方ノ實情、男女ノ別等ニ應ジテ適當ナル種類ノ工業ヲ選ビ必要ナル事項ヲ授クベシ
基礎的技能ノ習得ニカメシムルト共ニ正確綿密ニ處理スルノ態度ヲ養フコトニ留意スベシ

實習ヲ重ンジ力メテ實地ノ見學ヲ爲サシメ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十三條 實業科商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ配給ノ意義ヲ明ニシ信義ヲ重ンズルノ精神ヲ養フモノト
ス
商業ノ一般ニ付實際ニ適切ナル基本事項ヲ授クベシ
見學ヲ重ンジ地方ノ實情ニ應ジテ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十四條 實業科水産ハ水産ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ敢爲進取ノ氣象ヲ養ヒ海事思想ノ涵養ニカムモノトス
水産ノ一般ニ付地方ノ實情ヲ考慮シテ適切ナル事項ヲ授クベシ
實習ヲ重ンジ心身ノ鍛鍊ニカムベシ

漁村ノ經濟生活ヲ理會セシメ其ノ振興ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十五條 國民學校令第四條第七項ノ規定ニ依リ科目ヲ設ケントルトキハ管理者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ
止メントスルトキ亦同ジ

第二十六條 兒童身體ノ情況ニ依リ履修スルコト能ハザル教材ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セザルコトヲ得

第二十七條 初等科ノ課程ハ第一號表ニ依ル

第一學年第一學期ノ每週授業總時數ハ十八時迄ト爲スコトヲ得

第五十四條ノ規定ニ依リ二部ニ分チテ授業ヲ行フ場合ニ於テハ每週授業時數ハ第一學年及第二學年ニ在リテハ十八時迄其ノ他ノ學年ニ在リテハ之ヲ二十四時迄ト爲スコトヲ得

前二項ノ場合各教科及科目ノ每週授業時數ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムベシ

第一學年ニ在リテハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ全部又ハ一部ノ教科及科目ニ付綜合授業ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 高等科ノ課程ハ第二號表ニ依ル

第二十九條 土地ノ情況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニハ前二條ノ規定ニ拘ラズ各教科及科目ノ每週授業時數ヲ變更スルコトヲ得

トヲ得

前項ノ場合ハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十條 國民學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラズ全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ授業スルコトヲ得

第三十一條 各教科及科目ノ每週授業時數外ニ於テ每週凡ソ三時ヲ限リ行事、團體訓練等ニ充ツルコトヲ得

實業科農業ヲ課セザル場合ハ前項ノ外每週適當ナル時數ヲ農耕的戸外作業ニ充ツベシ

第三十二條 學校長ハ各學年ノ課程表並ニ各教科及科目ノ授業細目ヲ定ムベシ

第三十三條 國民學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全課程ノ修了ヲ認ムルニハ試験ノ方法ニ依ルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムベシ

第三十四條 學校長ハ初等科、高等科又ハ特修科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與スベシ

學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第三十條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第三節 教科用圖書、映畫及放送

第三十五條 兒童ニ使用セシムベキ郷土ニ關スル圖書ハ道府縣ニ於テ編纂シタルモノニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノタルベシ

第三十六條 歌詞樂譜ハ教科用圖書中ニ掲グルモノノ外ハ文部大臣ノ選定シタルモノ若ハ其ノ圖書ニ付檢定シタルモノ又ハ當該學校ニ特ニ關係アルモノニシテ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノタルベシ

第三十七條 前二條ノ規定スルモノヲ除キ文部省ニ於テ著作權ヲ有スル教科用圖書ナキトキハ文部大臣ノ檢定シタル圖書ヲ使用セシムルコトヲ得

第三十八條 教科用圖書同一ノ科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ地方長官之ヲ採定ス

前項ノ規定ニ依リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スル教科用圖書以外ノモノノ中ニ就キ採定セントスル場合ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 教科用圖書ヲ解釋シタル圖書若ハ之ニ類似シタル圖書ハ之ヲ兒童ニ使用セシムルコトヲ得ズ

第四十條 國民學校ニ於テ使用スル映畫ハ文部大臣ノ檢定シタルモノタルベシ

第四十一條 文部大臣ノ指定スル種目ノ放送ハ之ヲ授業ノ上ニ使用スルコトヲ得

第四十二條 國民學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

國民學校ノ學期ハ地方長官之ヲ定ムベシ

第四十三條 毎日ノ授業終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムベシ

第四十四條 國民學校ニ於テ第三十二條ノ規定スル課程表ニ依リ授業ヲ行ハザル日ハ左ノ如シ

一 一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日

二 日曜日

三 夏季、冬季、學年末、農繁期其ノ他ニ於テ地方長官ノ定ムル日

第四十五條 前條ニ規定スル授業ヲ行ハザル日ハ每學年百三十日以内トス

特別ノ事情アルトキハ地方長官ニ於テ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得

前條第三號ノ日數ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得

第四十六條 非常變災其ノ他急迫ノ事情アルトキハ學校長ニ於テ臨時授業ヲ行ハザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ地方

長官ニ報告スベシ

第四十七條 紀元節、天皇節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フベシ

一 職員及兒童「君ガ代」ヲ合唱ス

二 職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在所ヲ報告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜戴セザル學校及特ニ地方長官ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ地方長官ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セザル學校ニ於テハ前項第二號ヲ缺ク

第五節 編 制

第四十八條 國民學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四十九條 特別ノ事情ニ依リ國民學校ニ分教場ヲ設ケントスルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ止メントスルトキ亦同ジ

分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ前條第一項ノ學級數ニ算入セズ

第五十條 一學級ノ兒童數ハ初等科ニ在リテハ六十人以下、高等科ニ在リテハ五十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十一條 同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツベシ高等科ニ於テ各學年ヲ通ジ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ初等科第一學年及同第二學年ノ兒童ノ學級編制ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五十二條 國民學校ノ學級ノ編制ハ管理者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五十三條 國民學校ニ於テハ身體虛弱、精神薄弱其ノ他心身ニ異常アル兒童ニシテ特別養護ノ必要アリト認ムルモノノ爲ニ特ニ學級又ハ學校ヲ編制スルコトヲ得

前項ノ學級又ハ學校ノ編制ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十四條 土地ノ情況ニ依リ初等科ニ於テハ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ授業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ其ノ期間ヲ定メテ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第五十五條 國民學校ニ於テハ各學級ニ國民學校訓導免許狀ヲ有スル訓導（以下本科訓導ト稱ス）一人ヲ置クベシ但シ初等科ニ於テハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル訓導（以下初等科訓導ト稱ス）ヲ以テ充ツルコトヲ得

高等科ニ於テハ前項ノ職員ノ外教科科目、授業時數、兒童數等ニ應ジ必要ナル員數ノ本科訓導若ハ國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル訓導（以下專科訓導ト稱ス）ヲ置クベシ

初等科ニ於テハ適宜專科訓導ヲ置クコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ初等科ニ在リテハ二學級毎ニ本科訓導若ハ初等科訓導一人及國民學校准訓導免許狀ヲ有スル准訓導若ハ國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル准訓導（以下夫々本科准訓導、初等科准訓導ト稱ス）一人ヲ置クコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ三學級毎ニ本科訓導若ハ初等科訓導二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前各項ノ規定ニ依ルノ外尙本科准訓導又ハ初等科准訓導ヲ置キ兒童ノ教育ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部ニ分チテ授業ヲ行フ場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科訓導又ハ初等科訓導一人ヲ置クヲ常例トス

第五十六條 六學級以上ノ國民學校ニ於テハ學校長タル訓導ノ掌ル教育ヲ補助スル爲メ訓導一人若ハ准訓導一人ヲ置クコトヲ得

第五十七條 專科訓導ハ一校ヲ限リ他ノ國民學校ノ職員ヲ兼ヌルコトヲ得

第五十八條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級國民學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級國民學校トス

第六節 特修科

第五十九條 特修科ハ實業其ノ他土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授クルト共ニ國民學校ノ教科ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第六十條 特修科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科ヲ修了シタル者及國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタル者トス

第六十一條 高等科ノ教科ニ關スル規定ハ特修科ニ之ヲ準用ス但シ土地ノ情況ニ依リ各教科及科目ノ每週授業時數ハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條 第五十條中高等科ニ關スル規定及第五十五條第二項ノ規定ハ特修科ニ之ヲ準用ス

第六十三條 特修科ノ學級ハ男女ヲ分チテ之ヲ編制スベシ

第二章 設 備

第六十四條 校舍、校地、校具及體操場ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

校地ハ道德上及衛生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選ブベシ

實業科農業ヲ課スル場合ハ實習地ヲ設クベシ

第六十五條 校舍ヲ新築、増築、改築シ又ハ校地、體操場若ハ實習地ヲ増減セントスルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六十六條 土地ノ情況ニ依リ成ルベク職員ノ住宅ヲ設クベシ

第三章 就 學

第六十七條 市町村長ハ毎年十二月一日ノ現在ニ依リ其ノ市町村內ニ居住スル兒童ニシテ翌年四月ニ於テ其ノ年齡就學ノ始期ニ達スベキモノヲ調査シ第三號表ノ様式ニ依リ十二月末日迄ニ其ノ學齡簿ヲ編製スベシ

第六十八條 市町村長ハ學齡簿編製後三月末日迄ニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スベキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スベシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スベシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スベシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ謄本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スベシ

- 一 兒童死亡シタルトキ
- 二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ
- 三 兒童ノ居所一年以上分明ナラザルトキ

前項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滞ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セザル旨通知スベシ

第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スベシ

第六十九條 市町村長ハ兒童ヲシテ國民學校ニ入學セシムベキ期日ヲ一月末日迄ニ其ノ保護者ニ通知スベシ

市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ使用ニ係ル國民學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スベキ國民學校ヲ指定スベシ但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル國民學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第七十條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ遲滞ナク關係學校長ニ通知スベシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第七十一條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ其ノ居住スル區域ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ設置セル國民學校以外ノ國民學校ニ又ハ國民學校令第十一條ニ規定スル學校ニ入學セシメントスルトキハ國民學校ニ在リテハ管理

者、其ノ他ノ學校ニ在リテハ學校長ノ承諾書ヲ添へ關係市町村長ニ届出ツベシ

第七十二條 就學スベキ兒童ニシテ國民學校令第九條ニ掲グル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ猶豫ヲ市町村長ニ願出ツベシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ證明書等其ノ事由ヲ證スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

第七十三條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ其ノ年齡就學ノ始期ニ達スベキ兒童ニ在リテハ一年トシ既ニ其ノ年齡就

學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一年以下トス

第七十四條 左ニ掲グル學校ノ課程ハ國民學校令第十一條ニ規定スル課程トス

一 學習院初等科及中等科、女子學習院本科、陸軍幼年學校、高等師範學校附屬中學校及附屬國民學校、女子高等師範學校附屬高等女學校及附屬國民學校、師範學校附屬國民學校、高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校入學者檢定期程ニ依リ卒業者ニ付文部大臣ノ指定シタル學校、盲學校及聾啞學校

二 前號ニ掲グル學校以外ノ學校ニシテ地方長官ニ於テ認定シタルモノ

第七十五條 前條第二號ノ認定ヲ受ケントスルトキハ當該學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 教科用圖書

六 職員組織

七 校地、體操場及實習地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面

八 經費及維持ノ方法

九 其ノ他地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項

前項第一號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第一項第四號ノ學則ハ修業年限ニ關スル事項、兒童又ハ生徒ノ定員ニ關スル事項、教科内容及授業時數ニ關スル事項、學年、學期及授業ヲ行ハザル日ニ關スル事項、課程ノ修了ノ認定ニ關スル事項、入學退學ニ關スル事項、授業料入學料等ニ關スル事項ヲ規定シタルモノタルコトヲ要ス

第七十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 管理者又ハ設立者

六 認定ノ年月日

第七十七條 地方長官ハ第七十四條第二號ニ依リ認定シタル學校ノ授業、設備其ノ他ノ事項ニシテ教育上不適當ナリト認

ムルトキハ之ガ變更ヲ命ジ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ違反シタルトキハ地方長官ハ第七十四條第二號ニ依リ與ヘタル認定ヲ取消スコトヲ得

第七十八條 國民學校長ハ第四號表ノ様式ニ依リ兒童ノ學籍簿ヲ編製スベシ

第七十九條 國民學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスベシ

第八十條 國民學校長ハ第七十條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ國民學校ニ入學セザル者

アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スベシ

第八十一條 在學ノ學齡兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滞ナク其ノ保護者ニ對

シ兒童ヲシテ出席セシムベキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメザルトキハ其ノ旨關係市町村長ニ報告スベシ

第八十二條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席

ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメザルトキハ市町村長ハ其ノ旨地方長官ニ報告スベシ

第八十三條 地方長官ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ

出席ヲ督促スベシ

第八十四條 國民學校長ハ每學年ノ終ニ初等科又ハ高等科ヲ修了シタル兒童ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ報告スベシ

第八十五條 第七十四條各號ニ掲グル學校ニ在學スル兒童ニシテ國民學校ノ課程ニ相當スル課程ヲ修了シタルトキ又ハ其

ノ課程ヲ修了セズシテ退學シタルトキハ關係學校長及兒童ノ保護者ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四章 免許狀及檢定

第一節 免許狀

第八十六條 國民學校教員免許狀ハ之ヲ分チテ左ノ通トス

- 一 國民學校訓導免許狀
- 二 國民學校初等科訓導免許狀
- 三 國民學校專科訓導免許狀
- 四 國民學校准訓導免許狀
- 五 國民學校初等科准訓導免許狀

第八十七條 國民學校訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ全教科、國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校初等科ノ全教科、國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ國民科、理數科以外ノ教科中ノ一科目若ハ數科目又ハ國民學校令第四條第七項ノ規定ニ依リ設ケラレタル科目ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導ト爲ルコトヲ得

國民學校准訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ全教科、國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校初等科ノ全教科ニ付訓導ノ行フ兒童ノ教育ヲ助クル准訓導ト爲ルコトヲ得

第八十八條 國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル者ハ養護訓導ト爲ルコトヲ得

第八十九條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對スル國民學校訓導免許狀ノ授與ヲ地方長官ニ申請スベシ

第九十條 地方長官ハ國民學校教員免許狀登錄簿及國民學校養護訓導免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スベシ

第九十一條 國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換又ハ再渡ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第九十二條 地方長官ニ於テ國民學校令第二十一條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀擬奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ免許狀ノ種類、氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ

第九十三條 國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ地方長官之ヲ公告ス

第二節 檢定

第九十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ訓導、養護訓導又ハ准訓導ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ズ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者
 - 三 國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ノ擬奪ノ處分ヲ受ケ三年ヲ經過セザル者
- 第九十五條 檢定ハ之ヲ分チテ無試験檢定及試験檢定トシ學力、性及身體ニ付之ヲ行フ
- 第九十六條 無試験檢定ハ隨時之ヲ行ヒ試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行フ
- 第九十七條 訓導及准訓導ノ無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付第九十八條乃至第二百二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

- 一 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀、實業學校教員免許狀又ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
 - 二 高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ修了シタル者
 - 三 公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第一條第三號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル者
 - 四 文部省直轄學校ニ於テ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
 - 五 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
 - 六 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業生、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者
 - 七 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者
- 前項第五號及第六號ニ該當スル者ニ對シ本科訓導ノ檢定ヲ行フ場合ハ卒業後二年以上國民學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ノ高等科、專攻科若ハ修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ國民學校訓導ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者ニ限ル

第九十八條 本科訓導ノ試験檢定ノ科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校本科男生徒、女子ニ在リテハ師範學校本科

女生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ準ズ但シ農業、工業、商業及外國語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ缺クコトヲ得
第九十九條 本科准訓導ノ試験檢定ノ科目ハ本科訓導ノ試験檢定ノ科目トシ其ノ程度ハ本科訓導ノ試験檢定ノ程度ニ準ジ
之ヲ斟酌スベシ

第一百條 專科訓導ノ試験檢定ノ科目ハ體操、武道、音樂、習字、圖畫、工作、裁縫、家事、農業、工業、商業、水産、外
國語ノ一科目若ハ數科目トス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試験檢定ノ科目ノ外必要ナル科目ニ付試験ヲ行フコトヲ得
各科目ノ試験ハ教育ノ大要及受験科目ノ授業法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

試験檢定ノ科目ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校本科男生徒、女子ニ在リテハ師範學校本科女生徒ニ課スル各學科目ノ
程度ニ準ズ但シ第二項ノ試験檢定ノ科目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

專科訓導ノ試験檢定ハ國民學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、國史、數學ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニ
非ザレバ之ヲ行ハズ

第一百一條 初等科訓導ノ試験檢定ノ科目ハ本科訓導ノ試験檢定ノ科目トシ其ノ程度ハ本科訓導ノ試験檢定ノ程度ニ準ジ之
ヲ斟酌スベシ但シ實業、家事外國語ノ試験ハ之ヲ缺ク

第一百二條 初等科准訓導ノ試験檢定ノ科目ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ程度ハ初等科訓導ノ試験檢定ノ程度ニ準ジ之ヲ斟酌ス
ベシ

第一百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付訓導及准訓導ノ試験檢定ヲ行フトキハ國民學校教員檢定委員會ニ於テ第九十八
條乃至第一百二條ノ規定ニ對照シテ試験檢定ノ科目中一科目又ハ數科目ニ付之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シ
テハ其ノ科目ノ試験ハ之ヲ缺クコトヲ得

一 第九十七條第一項第一號乃至第六號ノ各號ノ一ニ該當スル者

二 國民學校教員免許狀ヲ有スル者

三 國民學校教員講習科ヲ終了シタル者

第一百四條 養護訓導ノ無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付之ヲ行フ

一 文部大臣ノ指定シタル學校又ハ養成所ヲ卒業シタル者

二 看護婦免狀ヲ有シ國民學校訓導免許狀ヲ有スル者

第一百五條 養護訓導ノ試験檢定ハ看護婦免狀ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付之ヲ行フ

一 高等女學校ヲ卒業シタル者

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有
スル者

三 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第一百六條 養護訓導ノ試験檢定ノ科目ハ修身、公民科、教育、學校衛生トシ修身、公民科、教育ノ試験檢定ノ程度ハ師範
學校本科第二部女生徒ニ課スル程度ニ準ズ

前條第一號及第二號ニ該當スル者ニ對シハ修身、公民科、教育ノ一科目又ハ數科目ノ試験ハ之ヲ缺クコトヲ得

第一百七條 試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セザルモ住良ナル成績ヲ得タル科目アルトキハ地方長官ハ其ノ科
目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試験檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試験ハ之ヲ缺ク

第五章 職 員

第一百八條 國民學校職員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ地域内ニ居住スベシ但シ學校長ニ
在リテハ地方長官、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百九條 准訓導及國民學校令第十九條ノ規定ニ依リ准訓導ノ職務ヲ行フ者（以下助教ト稱ス）ノ進退ハ地方長官之ヲ行
フ

市長又ハ市町村學校組合管理者ハ市又ハ市町村學校組合ノ設置スル國民學校ノ准訓導及助教ノ進退ニ關シ地方長官ニ具
狀スルコトヲ得

第一百十條 准訓導及助教ノ進退及懲戒處分ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第一百十一條 准訓導及助教ノ俸給旅費其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 授業料

第一百十二條 國民學校令第三十六條第二項ノ規定ニ依リ國民學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定ムベシ但シ第七十一條ノ規定ニ依リ入學スル兒童ニ付テハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一月二十錢、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一月十錢迄ヲ増スコトヲ得

兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヨリ入學スル兒童ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セズ

第一百十三條 特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百十四條 國民學校特修科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムベシ

第一百十五條 國民學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ズ

第一百十六條 貧困ノ爲メ授業料ヲ納ムルコト能ハズト認ムル者ニ對シテハ管理者ハ授業料額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

一家ノ兒童二人以上同時ニ國民學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減ズルコトヲ得

第一百十七條 戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ニシテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラザル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給又ハ雇員扶助令、傭人扶助令ニ依ル扶助金（療治料ヲ除ク以下同ジ）ヲ給セラレ又ハ給セラレベキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付テハ管理者ハ當該事實又ハ恩給若ハ扶助金ヲ給セラレベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ授業料ヲ免除スベシ下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラズ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラザル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレ又ハ給セラレベキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付亦同ジ

戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付テハ從軍中管理者ハ授業料額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第七章 學務委員

第一百十八條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ學務委員八十人以下トス但シ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ數ヲ増スコトヲ得

第一百十九條 學務委員ハ左ニ掲グル事項ニ付市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

一 就學督促ニ關スルコト

二 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト

三 設備ニ關スルコト

四 經費豫算ノ調製ニ關スルコト

五 授業料ニ關スルコト

六 學校基本財産ニ關スルコト

七 分教場ノ設置廢止ニ關スルコト

八 前後二部ニ分ツ授業ノ實施ニ關スルコト

九 特修科ノ設置廢止ニ關スルコト

第一百二十條 公民ヨリ出ヅル學務委員ノ任期ハ四年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第一百二十一條 學務委員ニシテ其ノ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 雜則

第一百二十二條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テ國民學校令ニ依リ難キ事項アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第一百二十三條 國民學校ニ類スル各種學校ハ國民學校ニ之ヲ併設スルコトヲ得

第一百二十四條 國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ハ國民學校職員タルベキ資格ヲ有スル者タルベシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ前項ノ資格ヲ有セザル者ヲ國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ニ任用スルコトヲ得

第百二十五條 國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ノ進退及懲戒處分ハ准訓導及助教ノ例ニ依ル

國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第百二十六條 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百二十七條 本令施行前文部大臣ノ認可ヲ受ケタル歌詞樂譜ハ第三十六條ニ規定スル文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト

看做ス

第百二十八條 一學級ノ兒童數ハ第五十條及第六十二條ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年三月三十一日迄ハ仍從前ノ例ニ依ルコ

トヲ得

第百二十九條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立小學校ノ分教場ハ本令ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノト看

做ス

第百三十條 本令施行ノ際市町村立小學校ニ於テ現ニ前後二部ニ分チテ授業ヲ行フモノニ在リテハ本令ノ規定ニ依リ地方

長官ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ期間ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第百三十一條 從前ノ規定ニ依リ編製シタル學齡簿ハ本令ノ規定ニ依リ編製シタルモノト看做ス

第百三十二條 本令施行ノ際現ニ在學スル兒童ノ學籍簿ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第百三十三條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令ノ規定ニ依ル國民學校教員免許狀中之ニ相當スルモノト

同一ノ效力ヲ有ス

第百三十四條 本令施行ノ際現ニ市町村立小學校長ヲ兼ネシメラレタル市町村立小學校訓導ノ職ニ在ル者ニシテ國民學校

令第五十五條第一項及第二項ニ依リ國民學校訓導ニ任ゼラレタルモノハ當該國民學校ノ學校長ニ補セラレタルモノトス

第百三十五條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ當分ノ内本令施行ノ際現ニ徵收スル授業料額ノ範圍内ニ於テ授

業料額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第百三十六條 東京市及大阪市ニ於ケル學務委員ノ員數ニ付東京市ニ在リテハ二十五人、大阪市ニ在リテハ二十人迄ニ増

ス場合ニ限リ第百十八條但書ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第百三十七條 國民學校令第五十八條ノ學務委員ノ任期ハ從前ノ規定ニ依リ任期ノ殘任期間トス

第一號表

教科	國民科							理數科		體鍊科	
	修身	國語	國史	地理	算數	理科	武道	體操	遊藝	衛生	
第一學年	國民道德	讀方、話方、方方	一〇		算數一般	自然、觀察			遊藝、體操	衛生	
第二學年	同	同	一一		同	同		同	同	同	
第三學年	二	二	八		五	一		同	遊藝、體操、技藝	衛生	
第四學年	二	二	八	一	五	二		同	同	同	
第五學年	二	七	二	二	五	二		武道、基礎、動作	同	同	
第六學年	二	七	二	二	五	二		同	同	同	

每週授業總時數	藝能科				
	(裁縫) (女)	工 作	圖 畫	習 字	音 樂
二三		三			
		工 作	賞 取 表 現 鑑	形 象 ノ 看 書	楷 ナ 書
二五		三			
		同	同	同	同
二七		三			二
		同	同	同	同
三一	二	(女)三(男)五			二
	裁縫 初步	同	同	同	同
三三	二	(女)三(男)五			二
	同	同	同	行 カ ナ 楷 書	同
三三	二	(女)三(男)五			二
	同	同	同	同	同

一時ノ授業時間ハ之ヲ四十分トス

第二號表

體 鍊 科	理 數 科	實 業 科	國 民 科				教 科 目	時 數	第 一 學 年 內 容	時 數	第 二 學 年 內 容
			水 商 工 農 產 業 業 業	地 理	國 史	國 語					
武 道	體 操	水 商 工 農 產 業 業 業	地 理	國 史	國 語	修 身					
四(女)	六(男)	二(女) 五(男)	二	二	四	二					
武 道ノ 基 礎 動 作	體 操 衛 生 數 練 遊 戲 競 技	實 習 農 業 工 業 商 業 又 ハ 水 産 ノ 大 要	地 理ノ 大 要	國 史ノ 大 要	讀 方 綴 方 話 方	國 民 道 德					
四(女)	六(男)	二(女) 五(男)	二	二	四	二					
同	同	同	同	同	同	同					

第四號表

初等科						學科及科目	住本籍所	名氏	年 月 日 生	入學年月日	修業年月日	及入學事由	保 護 者	氏 名	住 所	職 業	ノ兒童關係	
第六學年	第五學年	第四學年	第三學年	第二學年	第一學年													
						國民科												
						理數科												
						體操												
						音樂												
						工藝												
						實業科												
						教科概評												
						職擔任名者												

(裏)

高等科		初等科						學 事 項	高等科	
第二學年	第一學年	第六學年	第五學年	第四學年	第三學年	第二學年	第一學年		第二學年	第一學年
								性行概評		
								及身體ノ狀況		
								出席日數		
								病日數		
								事故日數		
								引忌日數		
								出席及缺席概對スル評		
見所ノ其及望志						境 環 ・ 庭 家				

幼稚園令

大正十五年四月二十一日
勅令第七十四號

昭和十六年二月二十八日
勅令第四百四十九號

- 第一條 幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス
- 第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得
- 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ幼稚園ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 私人ハ本令ニ依リ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 公立幼稚園ハ國民學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 幼稚園ノ設置廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ
- 第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ル者ハ三歳ヨリ國民學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼兒トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ三歳未滿ノ幼兒ヲ入園セシムルコトヲ得
- 第七條 幼稚園ニハ園長及相當員數ノ保姆ヲ置クヘシ
- 第八條 園長ハ園務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
- 園長ノ資格ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル
- 保姆ハ女子ニシテ保姆免許狀ヲ有スル者タルヘシ
- 第十條 特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ保姆免許狀ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得
- 第十一條 保姆免許狀ハ地方長官ニ於テ保姆檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス
- 保姆檢定ハ國民學校教員檢定委員會ニ於テ之ヲ行フ
- 保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣負擔トス
- 保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十二條 市長又ハ市町村學校組合管理者ハ市又ハ市町村學校組合ノ設置スル幼稚園ノ職員ノ進退ニ關シ地方長官ニ具狀スルコトヲ得

スルコトヲ得

- 第十二條ノ二 公立幼稚園ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ地方長官之ヲ定ム
- 第十二條ノ三 幼稚園ノ職員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十二條ノ四 幼稚園ノ職員ニ關シテハ國民學校令第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス
- 第十二條ノ五 公立幼稚園ノ職員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ地方長官ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス
- 私立幼稚園ノ職員ニシテ前項ニ準スヘキ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ停止ス
- 第十二條ノ六 地方長官ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ保姆免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第十三條 幼稚園ノ設置廢止、保育項目及其ノ程度、編制並設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十四條 幼稚園ニ於テ保育料入園料等ヲ徵收セントスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ額ヲ定ムヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

幼稚園令施行規則

大正十五年四月二十二日
文部省令第十七號

昭和十六年四月八日
文部省令第三十一號

- 第一條 幼稚園ニ於テハ幼稚園令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ幼兒ヲ保育スヘシ
幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス
常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメンコトヲ務ムヘシ
- 第二條 幼稚園ノ保育項目ハ遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等トス
- 第三條 幼稚園ノ幼兒數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ約二百人マテニ増スコトヲ得
- 第四條 保母一人ノ保育スル幼兒數ハ約四十人以下トス
- 第五條 幼稚園ニ於テハ年齡別ニ依リ組ノ編制ヲ爲スヲ常例トス
- 第六條 幼稚園ニ於テハ保育項目、保育時數、組數等ニ應シ必要ナル員數ノ保母ヲ置クコトヲ要ス
- 第七條 保母免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ有セサル女子ヲ以テ保母ニ代用スルコトヲ得但シ保母免許狀ヲ有セサル者ノ數保母免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
特別ノ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ當分ノ内期間ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
- 第八條 公立幼稚園ノ園長タルヘキモノハ國民學校訓導免許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル者、保母免許狀ヲ有スル者又ハ教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ
- 第九條 保母檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トシ學力、性及身體ニ就キ之ヲ行フ
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ保母ノ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得
 - 一 國民學校訓導、國民學校初等科訓導又ハ國民學校養護訓導ノ免許狀ヲ有スル者
 - 二 高等女學校ヲ卒業シタル者ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ合格又ハ卒業後一年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事シタル者
 - 三 專門學校入學資格ヲ以テ入學資格トスル學校ニ於テ一年以上幼兒ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

- 四 従前ノ規定ニ依リ保母免許狀ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事シタル者
- 五 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適當ト認メタル者
- 第十一條 保母ノ試驗檢定ハ左ノ科目ニ就キ國民學校初等科訓導ノ試驗檢定ノ程度ニ準シ之ヲ行フ
修身 道德ノ要旨
教育 教育、兒童心理、教授法及管理法ノ大要
保育 育兒法、保育法、保育項目ニ關スル事項ノ實際
國語 普通文及國民學校教科用圖書（國語）ノ講讀、作文、習字
算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例
歴史 國史ノ大要
地理 地理ノ大要
理科 理科ノ大要
圖畫 自在畫
手工 手工ノ大要
音樂 唱歌、樂器使用法
體操 體操、遊戲及競技
裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方
- 第十二條 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ修身、教育保育、圖畫、手工、音樂、體操以外ノ學科目ニ限リ其ノ試驗ヲ缺クコトヲ得
- 第十三條 國民學校令施行規則第九十條、第九十一條、第九十三條、第九十四條及第七百七條ノ規定ハ保母ノ檢定及免許狀ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十四條 公立幼稚園ノ職員ノ進退ハ地方長官之ヲ行フ

第十四條ノ二 公立幼稚園ノ園長及保母ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二 幼稚園編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三 教員養成ヲ目的トスル官立、道府縣立學校ニ入學スルトキ

四 名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五 外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

第十四條ノ三 師範學校ヲ卒業シタル公立幼稚園ノ園長ニシテ陸海軍現役ニ服シタル者ハ當然休職者トス但シ師範學校ヲ

卒業シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 現役兵ニシテ在營中ノ者(兵タル下士官候補者、憲兵及現役下士官又ハ憲兵タランコトヲ志願シ現役ノ期間ヲ延長セラレタル者並ニ海軍志願兵ヲ除ク)

二 現役下士官ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)ヨリ任セラレタル者(志願ニ依リ陸軍現役下士官ニ任セラレタル者及歸

休期間中ニ在ル者ヲ除ク)

三 修業期間中ニ在ル幹部候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)ヨリ採用セラレタル者

四 修業期間中ニ在ル操縦候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)、未タ現役兵ニ非サルモ徵兵終決處分ニ依リ現役編入ノ

處分アリタル者又ハ未タ徵兵終決處分ヲ經サル者ヨリ採用セラレタル者

五 陸軍補充令第八十三條第一項ノ下士官候補者ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)、未タ現役兵ニ非サルモ徵兵終決處分ニ

依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未タ徵兵終決處分ヲ經サル者ヨリ採用セラレタル者

第十四條ノ四 休職ノ期間ハ第十四條ノ二第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一年トシ同條第六號ノ場合ニ在

リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第十四條ノ三ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三月トス但シ

第十四條ノ二第五號ノ場合ニ在リテハ地方長官ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十四條ノ二第六號ニ依リ休職者其ノ事件ニ關スル裁判確定シ其ノ際失職ト爲ラサル場合ニ在リテハ前項ノ期間満了後

尙三月ハ休職ノ期間トス

第十四條ノ五 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ六 公立幼稚園ノ園長及保母ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一 不具、癩疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職ヲ出願シタルトキ

三 休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第十四條ノ七 第十四條ノ二又ハ第十四條ノ六ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ地方

長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第十四條ノ八 公立幼稚園ノ園長及保母ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一 當該幼稚園ノ廢セラレタルトキ

二 休職期間満チタルトキ

第十四條ノ九 公立幼稚園ノ職員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ効力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職

ヲ失フ

第十四條ノ十 公立幼稚園ノ保母ニ代用スルコトヲ得ル者ノ進退ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條ノ十一 私立幼稚園ノ職員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第十四條ノ十二 公立幼稚園ノ職員ハ當該幼稚園所在ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ地域内ニ居住スヘシ

但シ幼稚園長ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ者ニ在リテハ幼稚園長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

公立幼稚園ノ職員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第十四條ノ十三 公立幼稚園ノ職員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ事務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他

ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

公立幼稚園ノ職員ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條ノ十四 公立幼稚園ノ職員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵ス

ルコトヲ要ス但シ之ヲ徴スルコト能ハサル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第十四條ノ十五 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十四條ノ十六 公立幼稚園ノ職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ地方長官ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第十四條ノ十七 公立幼稚園ノ職員ノ減俸ハ一月以上一年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第十四條ノ十八 公立幼稚園ノ職員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二年ヲ經ルニ非サレハ公立幼稚園ノ職員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第十四條ノ十九 第十四條ノ十四乃至第十四條ノ十六ノ規定ハ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條ノ二十 私立幼稚園ノ職員ノ業務停止ハ一月以上二年以下トス

第十四條ノ二十一 地方長官ニ於テ幼稚園ノ職員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第十四條ノ二十二 地方長官ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル幼稚園職員ニシテ改悛ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ

第十四條ノ十八ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ職員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第十四條ノ二十三 地方長官ニ於テ私立幼稚園ノ保母ニ代用スル者ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第十五條 公立幼稚園ノ園長及保母ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

園長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
保母	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
	一六五	一四五	一三五	一二五	一一五	一〇五	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇
	二一五	一〇五	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五			

一級俸ヲ受ケテ特ニ功勞アル者ハ園長ニ在リテハ二百十五圓迄、保母ニ在リテハ百四十五圓迄増給スルコトヲ得

第十五條ノ一 公立幼稚園ノ職員ノ俸給ハ當分ノ内等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條ノ二 公立幼稚園ノ職員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第十五條ノ三 休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ特別ノ事情アル場合若ハ第十四條ノ二第三號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

第十五條ノ四 師範學校ヲ卒業シタル公立幼稚園ノ園長ニシテ第十四條ノ三各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ服役中俸給ヨリ其ノ三分ノ二ニ相當スル額及陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給額ノ合算額ヲ減ス

第十五條ノ五 公立幼稚園ノ職員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十五條ノ六 公立幼稚園ノ職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一 懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ職ヲ失ヒタルトキ

第十五條ノ七 公立幼稚園ノ職員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額ノ四箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第十五條ノ八 公立幼稚園ノ園長及保母ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ其ノ他ノ職員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第十五條ノ九 公立幼稚園ノ職員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第十五條ノ十 公立幼稚園ノ職員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第十五條ノ十一 公立幼稚園ノ職員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第十五條ノ十二 公立幼稚園ノ職員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第十五條ノ十三 第十五條ノ九ニ依リ給スル金額ハ地方長官ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第十五條ノ十乃至第

十五條ノ十二ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ
第十五條ノ十四 本令ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第十五條ノ十五 第十五條ニ掲クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條ノ十六 公立幼稚園ノ保母ニ代用スルコトヲ得ル者ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第十六條 削 除

第十七條 幼稚園ヲ設置セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

一 名稱

二 位置

三 園則

四 設備

五 經費及維持ノ方法

六 開園ノ期日

七 私立幼稚園ニ在リテハ設立者ノ履歷書

前項第一號及第二號ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號及第六號ノ變更ハ地方長官ニ開申スヘシ

位置ニ關シテハ敷地ノ面積、地質及附近ノ情況、建物ノ配置ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定量分析表ヲ添付スヘシ

第十八條 幼稚園令第六條但書ノ規定ニ依リ三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムトスルトキハ之ニ要スル施設ノ概要ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 敷地ハ道徳上及衛生上害ナキ所タルコト

二 建物ハナルヘク平家造トシ組數ニ應スル保育室、遊戯室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フルコト

三 保育室ノ大サハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナラサルコト

四 遊園ハ幼兒一人ニ付ナルヘク一坪以上ノ割合ヲ以テ設クルコト

五 保育用具、玩具、繪畫、樂器、黑板、机、腰掛、砂場等ヲ備ヘ其ノ他衛生上ノ設備ヲ爲スコト

三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルモノニ在リテハ前項ノ外之ニ要スル相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十條 建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受ケ位置ノ變更ニアラサル敷地ノ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ニ開申スヘシ

第二十一條 幼稚園ヲ廢止セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ廢止ノ事由及期日並廢止後ノ幼兒ノ處分方法ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

第二十條 公立幼稚園ノ費用負擔者又ハ私立幼稚園ノ設立者ヲ變更シ、私立幼稚園ヲ公立幼稚園ニ、公立幼稚園ヲ私立幼稚園ニ變更セムトスルトキハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 園則中ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

一 幼兒ノ定員及入園年齢ニ關スル事項

二 入園及退園ニ關スル事項

三 保育課程

四 保育期ノ區分、保育日數、每週保育時數、始業ノ終業時刻等ニ關スル事項

五 保育料、入園料等ニ關スル事項

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

青年學校令

昭和十四年四月二十六日 勅令第二百五十四號
昭和十六年二月二十八日 勅令第二百五十五號

第一章 目的

第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二章 課程

第二條 青年學校ニ本科及研究科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ本科ノミヲ置クコトヲ得

第三條 本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年、女子ニ在リテハ三年トス但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得

研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス

第四條 本科ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一學年及第二學年ニ於テ各二百十時以上、第三學年以上ニ於テ各百八十時以上トシ女子ニ在リテハ各學年二百十時以上トス

研究科ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第五條 本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科並ニ教練科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科並ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ムベシ但シ修身及公民科ハ之ヲ缺クコトヲ得ズ
教授及訓練科目ノ程度ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 特別ノ學歷若ハ素養ヲ有スル生徒又ハ現ニ青年學校以外ノ施設ニ於テ教育ヲ受クル生徒ニ對シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ教授及訓練科目中其ノ一部ヲ課セザルコトヲ得

第八條 教授及訓練科目中生徒其ノ身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハザル科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セザルコトヲ得

第九條 青年學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル生徒又ハ品行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育ニ妨アリト認ムル生徒ノ青年學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第十條 青年學校ノ教科用圖書ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就學

第十一條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科修了者トス
研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者トス

前二項ノ規定ニ依リ入學シ得ル者ノ外特ニ青年學校ニ入學スルコトヲ得ル者ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 年齡滿十四歳ヲ超エ滿十九歳（滿十九歳ニ達シタル日ニ於テ仍青年學校本科ノ學年ノ中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終）ニ至ル迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外其ノ保護者ニ於テ之ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムベキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者

二 現ニ高等學校尋常科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者

三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者

五 現ニ實業學校ニ在學スル者、國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第四學年ヲ修了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者

七 特ニ文部大臣ノ指定スル者

第十三條 前條ノ保護者トハ就學セシメラルベキ者（義務就學者ト稱ス以下同ジ）ニ對シ親權ヲ行フ者（親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者）ヲ謂フ

前條ノ義務課程トハ本科ノ各學年ニ於テ義務就學者ガ第四條ニ規定スル各最低時數ヲ以テ履修スベキ課程ヲ謂フ
第十四條 義務就學者ノ癡癩白痴又ハ不具癱疾其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

義務修學者ノ病弱其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ就學時期ニ於テ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

第十五條 義務就學者青年學校以外ノ施設ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムルトキハ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ其ノ期間青年學校ニ就學スルモノト看做ス

前項ノ課程ノ認定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
第十六條 第七條及第八條ノ場合ニ於テハ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務課程ヲ履修セシムベキ義務ハ各其ノ限度ニ於テ免除セラレタルモノトス

第十七條 義務就學者ヲ使用スル者ハ其ノ使用ニ依リテ義務就學者ノ義務課程ノ履修ヲ妨グルコトヲ得ズ

第四章 教員

第十八條 青年學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十九條 青年學校ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クベシ

第五章 設置

第二十條 北海道府縣、市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

北海道府縣ノ設置スル青年學校ハ之ヲ道府縣立青年學校トシ市町村、市町村學校組合ノ設置スル青年學校ハ之ヲ市町村立青年學校トス

第二十一條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體、法人ニ非ザル社團ニシテ代表者ノ定アルモノ及私人ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ規定スル者ノ設置スル青年學校ハ之ヲ私立青年學校トス

第二十二條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

青年學校ノ設置廢止ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十三條 青年學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十四條 市町村ハ其ノ區域内ノ義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナル青年學校ヲ設置スベシ但シ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ依リ設置スルヲ妨グズ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ノ市町村内ニ於ケル校數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムベシ

第二十六條 地方長官ハ一町村ニ於テ就學セシムベキ者ノ數一青年學校ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一青年學校ヲ構成スルニ足ルベキ數ヲ得ルコト能ハズト認ムルトキハ青年學校ノ設置ニ代ヘ其ノ町村ヲシテ義務就學者ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノガ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ青年學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ義務就學者ノ教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ關係市町村、市町村學校組合、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クベシ

第二十七條 地方長官ハ町村ガ其ノ資力青年學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘズ且青年學校設置ノ爲他ノ市町村ト學校組合ヲ設クルコト能ハズト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ前條第一項ノ事由アルモ町村ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハズト認ムルトキハ其ノ町村ノ區域ノ全部又ハ一部ニ關シ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

前條第二項ノ事由アルモ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハズト認ムルトキ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域ノ一部ニ關シ亦同ジ

前二項ノ規定ニ依リ青年學校設置ノ義務ヲ免ゼラレタル區域内ノ義務就學者ノ保護者ハ第十二條ニ規定スル義務ヲ免除

セラレタルモノトス

第六章 費用負擔及授業料

第二十八條 青年學校設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外道府縣立青年學校ニ在リテハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トシ市町村立青年學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス其ノ費用ノ概目左ノ如シ

- 一 設備及其ノ維持ノ費用
- 二 職員ノ俸給、旅費其ノ他ノ諸給與
- 三 校費

第二十六條ノ規定ニ依ル教育事務ノ委託ニ關スル費用ハ之ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合若ハ町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

第二十九條 區長及其ノ代理者並ニ學區ノ學務委員ガ青年學校ニ關スル國ノ教育事務ヲ執行スル爲ニ要スル費用ハ市町村會、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔トナスコトヲ得

第三十條 青年學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在テリハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條 道府縣立青年學校ノ授業料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トシ市町村立青年學校ノ授業料ハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ收入トス

第三十二條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七章 管理及監督

第三十三條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ青年學校ニ關スル教育事務ヲ管掌シ市町村立青年學校ヲ管理ス

第三十四條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事務ノ爲市制第八十三條若ハ町村制第六十九條ノ規定又ハ其準用規定ニ依リ學務委員ヲ置クベシ此ノ場合ニ於テハ市町村會、市町村學校組合又ハ町村學校組合

會ノ議決ニ依ルコトヲ要セズ

市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事務ノ爲條例ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立青年學校ノ學校長又ハ教員ヲ加フベシ委員中學校長又ハ教員ヨリ出ヅル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第三十五條 學務委員ノ職務其ノ他ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村立青年學校ノ學校長及教員ハ其ノ執行スル青年學校ニ關スル國ノ教育事務ニ付地方長官之ヲ監督ス

第三十七條 私立青年學校ハ地方長官之ヲ監督ス

第八章 補 則

第三十八條 町村組合ニシテ其ノ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合會ハ之ヲ町村會ト看做ス

第三十九條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テハ本令中町村、町村組合、町村吏員、町村組合吏員、町村會及町村組合會ニ關スル規定ハ其ノ地域ニ於ケル此等ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第三十四條第一項中町村制第六十九條トアルハ前項ノ地域ニ於テハ北海道一級町村制第一條、北海道二級町村制第七十二條トス

第一項ノ地域ニ於テ本令ニ依リ難キ事項ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 本令ニ依ラザル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ズ

附 則

本令中第十三條第一項及第三十九條第二項ノ改正規定ハ公布ノ日ヨリ、第十二條ノ改正規定(年齢ニ關スル部分ヲ除ク)ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中年齡ニ關スル第十二條ノ改正規定ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年四月一日以前ニ出生シタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令中第二條、第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項、第十一條第一項及第十三條第二項ノ改正規定ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十一條第一項中「尋常小學校卒業者」ヲ「國民學校初等科修了者」ニ、「高等小學校卒業者」ヲ「國民學校高等科修了者」ニ改メ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校普通科ニシテ其ノ課程ガ國民學校高等科ノ課程ト同等以上ト認メラルモノハ第二條、第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項及第十一條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ昭和二十年四月一日以降當分ノ内仍之ヲ存續スルコトヲ得

普通科修了者ハ昭和二十年四月一日ヨリ本科入學ニ關シテハ之ヲ國民學校高等科修了者ト看做ス

青年學校令施行規則

昭和十四年四月二十六日 昭十六年三月三十一日
文部省令第二十四號 文部省令第二十一號

第一章 課程

第一條 普通科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一號表、女子ニ在リテハ第二號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第一號表

教授及訓練科目		學年	
修身及公民科	普通學科	第一學年	第二學年
二〇	九〇	二〇	二〇
六〇	六〇	六〇	六〇
四〇	四〇	四〇	四〇
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇

第二號表

教授及訓練科目		學年	
修身及公民科	普通學科	第一學年	第二學年
二〇	八〇	二〇	八〇

本科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第三號表、女子ニ在リテハ第四號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ但シ男子ニ於テ教授及訓練期間ヲ四年ト爲シタル場合ニ在リテハ第三號表ノ第一學年乃至第四學年、女子ニ於テ教授及訓練期間ヲ二年ト爲シタル場合ニ在リテハ第四號表ノ第一學年及第二學年ノ時數以上トス

第三號表

合 計	體 操 科	家 庭 科	職 業 科	學 年				
				第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
二一〇	三〇	八〇		二一〇	三〇	八〇		

第四號表

教授及訓練科目 修身及公民科	學 年	學 年				
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
計	二一〇	二一〇	一八〇	一八〇	一八〇	
普通學科	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
職業科	七〇	七〇	九〇	九〇	九〇	
數 科	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	

合 計	體 操 科	家 庭 科	職 業 科	學 年				
				第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
二一〇	三〇	一一〇		二一〇	三〇	一一〇		

研究科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

第二條 青年學校令第七條ノ規定ニ依リ特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル生徒ニ對シ課セザルコトヲ得ル科目ハ本科第三學年以上ノ普通學科及職業科トス

第三條 青年學校令第七條ノ規定ニ依リ教授及訓練科目ノ免除ヲ受ケントスルトキハ生徒ノ保護者ハ其ノ事由ヲ證明スベキ書類ヲ添ヘ青年學校長ニ其ノ旨申出ヅベシ

第四條 左ニ掲グル者青年學校ニ在學スルトキハ之ヲ青年學校令第七條ニ規定スル特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル生徒トス

一 文部大臣ノ指定シタル者

二 地方長官ニ於テ青年學校令第七條ニ規定スル特別ノ學歷又ハ素養ヲ有スル者ト認定シタル者

第五條 左ニ掲グル施設ハ青年學校令第七條ニ規定スル施設トス

一 文部大臣ノ指定シタル施設

二 地方長官ニ於テ青年學校令第七條ニ規定スル施設ト認定シタル施設

第六條 前二條ニ規定スル地方長官ノ認定ヲ受ケントスルトキハ第四條第二號ノ認定ニ在リテハ關係施設ノ、前條第二號ノ認定ニ在リテハ當該施設ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

一 目的

二 名稱

- 三 位置
- 四 學則又ハ規則
- 五 青年學校ニ於テ免除ヲ受ケントスル教授及訓練科目及期間
- 六 前號ノ教授及訓練科目ニ相當スベキ科目擔任教職員ノ氏名、資格及履歷
- 七 校地又ハ使用地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面
前項第一號乃至第四號ノ變更ハ豫メ之ヲ地方長官ニ開申スベシ
- 第七條 地方長官ハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ認定シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ
 - 一 認定シタル者又ハ認定シタル施設
 - 二 免除科目
 - 三 第四條第二號又ハ第五條第二號ノ規定ニ依リ認定ヲ受ケタル施設ノ位置、設立者及學則又ハ規則
 - 四 認定ノ年月日
- 第八條 第三條ノ申出ニシテ第四條ノ規定ニ依リ指定若ハ認定セラレタル者又ハ第五條ノ規定ニ依リ指定若ハ認定シタル施設ニ於テ教育ヲ受クル者以外ノモノニ係ルトキハ學校長ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ稟申シ其ノ指揮ヲ受クベシ
 - 一 生徒氏名、生年月日、所屬科及學年
 - 二 科目ヲ免除セントスル事由
- 第九條 青年學校ニ於テ教科用圖書ヲ使用スル場合ニハ修身及公民科竝ニ普通學科ニ在リテハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ又ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ學校長ニ於テ之ヲ定メ地方長官ニ報告スベシ
修身及公民科竝ニ普通學科以外ノ教授及訓練科目ニ付教科用圖書ヲ使用スル場合ニハ豫メ地方長官ニ開申スベシ但シ地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 青年學校ノ專修科ノ教授及訓練期間、入學資格、專修項目其ノ他必要ナル事項ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ
專修科ニ於テハ專修項目ノ外修身及公民科ヲ課スベシ

- 第十一條 青年學校ニ於テハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得
- 第二章 學年、教授及訓練ノ日時及式日
- 第十二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十三條 青年學校ノ教授及訓練ハ晝間ニ於テ之ヲ行フ但シ土地ノ情況ニ應ジ午後九時ヲ過ギザル夜間ニ於テ之ヲ行フコトヲ妨グズ
前項ノ規定ハ教授及訓練ノ性質上特ニ夜間ニ於テ行フ必要アルモノニ付テハ之ヲ適用セズ
- 第十四條 教授及訓練ヲ行フベキ日及時刻ハ學校長之ヲ定ムベシ
- 第十五條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フベシ
- 第十六條 非常變災其ノ他己ムヲ得ザル事情アルトキハ學校長ハ教授及訓練ヲ行フベキ日ニ於テ之ヲ行ハザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ地方長官ニ報告スベシ
- 第三章 就 學
- 第十七條 青年學校ノ入學期ハ毎年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入學セシムルコトヲ得
- 第十八條 國民學校高等科、高等學校尋常科、師範學校、中學校、高等女學校又ハ實業學校ノ中途退學者及國民學校高等科又ハ實業學校ノ卒業生ニ付テハ左ノ各號ニ依リ入學セシムベシ
 - 一 國民學校高等科第一學年修了者ハ普通科第二學年、國民學校高等科修了者ハ本科第一學年
 - 二 高等學校尋常科、中學校、高等女學校又ハ國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ普通科第二學年、同第二學年修了者ハ本科第一學年、同第三學年修了者ハ本科第三學年
 - 三 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年又ハ三年ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ普通科第二學年、同第二學年修了者又ハ卒業生ハ本科第一學年、同第三學年卒業生ハ本科第三學年
 - 四 國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ本科第一學年、同第二學年修了者又ハ卒業生ハ本科第三學年
 - 五 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者ハ本科第三學年

六 師範學校本科第一部第一學年修了者ハ本科第三學年

專門學校入學者檢定規程ニ依リ指定ヲ受ケタル學校又ハ高等女學校實科ノ各學年修了者ノ編入ニ關シテハ其ノ課程ノ程度ニ應ジ前項ノ例ニ準ズベシ

前二項ノ規定ニ該當セザル者ニ付テハ其ノ年齢及學歷素養ニ應ジ青年學校ノ相當科ノ相當學年ニ入學セシムベシ

第十九條 學校長ハ他ノ青年學校ヨリ轉學スル生徒アルトキハ之ヲ相當科ノ相當學年ニ入學セシムベシ

第二十條 生徒ニシテ特別ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ヲ受クルコトヲ志望スル者アルトキハ學校長ハ其ノ生徒ヲシテ他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ノ一部ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十一條 各學年ノ課程又ハ普通科、本科若ハ研究科ノ全課程ノ修了ヲ認ムルニハ生徒ノ出席時數其ノ他平素ノ學修情況ヲ標準トシテ之ヲ爲スベシ

第二十二條 學校長ハ普通科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證、本科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證ヲ授與スベシ

第二十三條 市町村長ハ其ノ市町村內ニ居住シ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間ニ滿十三歳ニ達スベキ男子ニシテ右期間ニ於テ青年學校ニ就學セシムベキ者ヲ調査シ第五號表ノ様式ニ依リ毎年一月末日迄ニ翌年度ノ義務就學者名簿ヲ編製スベシ

前項ノ義務就學者名簿ハ國民學校令施行規則第六十七條ニ規定スル學齡簿ニ第六號表ノ様式ニ依リ必要事項ヲ追加記入シテ之ニ代フルコトヲ得

第二十四條 市町村長ハ其ノ市町村ニ來住シ又ハ其ノ市町村ノ義務就學者名簿(學齡簿ヲ代用シタルトキハ學齡簿以下同ジ)ニ未登載ノ者ニシテ其ノ市町村內ニ居住シ青年學校ニ就學セシムベキモノアルトキハ遲滞ナク之ヲ其ノ者ノ年齢ニ應ジ義務就學者名簿ニ記入スベシ義務就學者名簿編製後三月末日迄ニ其ノ年四月ニ於テ青年學校ニ就學セシムベキ者ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキ亦同ジ

第二十五條 市町村長ハ義務就學者名簿ニ登載ノ者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スベシ但シ第三號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ義務就學者名簿ノ謄本、第二十三條第二項ノ規定ニ依リ學齡簿ヲ代用

シタルトキハ青年學校ニ關スル部分ノ抄本ヲ其ノ者ノ轉住地ノ市町村長ニ送付シ次項ノ記入手續完了ノ通知アリタル後之ヲ抹消スベシ

一 死亡シタルトキ

二 日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

三 市町村外ニ轉住シタルトキ

前項但書ノ規定ニ依リ義務就學者名簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滞ナク義務就學者名簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ本人ノ來住セザル旨ヲ通知スベシ

第二十六條 市町村長ハ前二條ニ規定スルモノノ外義務就學者名簿ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スベシ

第二十七條 市町村長ハ義務就學者ヲシテ青年學校ニ入學セシムベキ期日ヲ定メ豫メ其ノ保護者及義務就學者ニ通知スベシ

第二十八條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ市町村立青年學校二校以上アルトキハ市町村長ハ前條ノ通知ヲ爲スニ當リ義務就學者ノ入學スベキ青年學校ヲ指定スルコトヲ得但シ保護者ハ義務就學者ヲ入學セシメントスル青年學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申出ヅルコトヲ得

第二十九條 市町村長ハ前二條ノ規定ニ依リ通知シタル義務就學者ノ氏名、入學期日其ノ他關係事項ヲ關係市町村立青年學校長ニ通知スベシ其ノ通知ヲ爲シタル後義務就學者ノ就學ニ關シ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第三十條 青年學校令第十四條ニ掲グル事由アルトキハ保護者ハ就學ノ免除又ハ猶豫ヲ市町村長ニ申出ヅベシ前項ノ場合ニ於テ市町村長瘋癲白痴又ハ不具廢疾以外ノ事由ニ因リ就學ヲ免除セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

市町村長就學ノ免除又ハ猶豫ヲ爲シタルトキハ之ヲ地方長官ニ報告スベシ
就學猶豫ノ期間ハ當該學年ノ終迄トス但シ其ノ期間經過後仍就學猶豫ヲ必要トスル事由アルトキハ引續キ猶豫ヲ爲スヲ妨グズ

第三十一條 義務就學者ノ保護者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ關係施設ノ管理者若ハ設立者又ハ學校長若ハ之

ニ該當スル者ノ承認書又ハ證明書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ヅベシ

一 義務就學者ヲ第二十八條ノ規定ニ依リ入學セシムベキ學校以外ノ青年學校ニ入學セシメントスルトキ

二 義務就學者青年學校令第十五條ニ規定スル青年學校以外ノ施設ニ於テ教育ヲ受ケントスルトキ

義務就學者青年學校ニ在學スル場合ニ於テ他ノ青年學校ニ轉學セントスルトキ又ハ青年學校令第十二條第一號乃至第五

號及第七號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ亦前項ニ同ジ

第三十二條 左ニ掲グル課程ハ青年學校令第十五條第一項ニ規定スル課程トス

一 文部大臣ノ指定シタル課程

二 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル課程

第三十三條 前條第二號ノ認定ヲ受ケントスルトキハ當該施設ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請

スベシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則又ハ規則

五 認定ヲ受ケントスル課程

六 前號ノ課程ノ教科目ヲ擔任スル教員ノ氏名、資格、履歷及專任兼任ノ區別

七 校地又ハ使用地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面

八 經費及維持ノ方法

認定ヲ受ケントスル課程ハ特別ノ事情アルモノヲ除クノ外ハ第一條第一號表及第三號表ニ掲グル各教授及訓練科目ノ最

低時數以上ヲ各其ノ相當スベキ科目ニ付課スルモノタルヲ要ス

第一項第一號乃至第四號ノ變更ハ豫メ之ヲ地方長官ニ開申スベシ

第三十四條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 管理者又ハ設立者

五 學則又ハ規則

六 認定ヲ爲シタル課程

七 認定ノ年月日

第三十四條ノ二 地方長官ハ第三十二條第二號ノ規定ニ依リ認定シタル施設ノ教授及訓練、設備其ノ他ノ事項ニシテ教育

上適當ナラズト認ムルトキハ之ガ變更ヲ命ジ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ違反シタルトキハ地方長官ハ第三十二條第二號ノ規定ニ依リ與ヘタル認定ヲ取消スコトヲ得

第三十五條 市町村立青年學校長ハ第二十九條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル義務就學者中入學期日後十日以内ニ其ノ青年

學校ニ入學セザル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スベシ

第三十六條 市町村立青年學校ニ在學スル義務就學者正當ノ事由ナク引續キ缺席シタルトキハ學校長ハ速ニ其ノ保護者ニ

對シ生徒ノ出席スベキ旨ヲ通知シ仍出席セザルトキハ關係市町村長ニ其ノ旨報告スベシ

第三十七條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ保護者ニ對シ其ノ生徒ノ就學又ハ出席ヲ督促スベ

シ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セザルトキハ市町村長ハ地方長官ニ其ノ旨報告スベシ

第三十八條 道府縣立青年學校又ハ私立青年學校ニ在學スル義務就學者正當ノ事由ナク引續キ缺席シタルトキハ學校長ハ

速ニ其ノ保護者ニ對シ生徒ノ出席スベキ旨ヲ通知スベシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ通知ヲ爲スモ仍出席セザルトキハ學校長ハ地方長官ニ其ノ旨報告スベシ

第三十九條 地方長官ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ保護者ニ對シ生徒ノ就學又ハ出席ヲ督促スベシ

第四十條 前四條ノ規定ニ依リ生徒ノ就學又ハ出席スベキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲ス場合ニ於テハ當該生徒ニ對シテモ就學又ハ出席スベキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲スベシ

第四十一條 市町村立青年學校長ハ每學年ノ終ニ於テ本科、本科ヲ置カザル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタル義務就學者ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ報告スベシ

第四十二條 道府縣立青年學校又ハ私立青年學校ニ入學シタル義務就學者本科、本科ヲ置カザル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタルトキ又ハ之ヲ修了セズシテ退學シタルトキハ學校長ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四十三條 義務就學者私立青年學校又ハ第三十二條第二號ノ施設ニ在學スルトキハ地方長官ハ關係市町村長ヲシテ當該施設ニ付其ノ出席情況ヲ調査セシムルコトヲ得

第四十四條 青年學校令第十二條第一號乃至第五號及第七號ノ一又ハ同第十五條ニ該當スル者其ノ事實止ミタルトキハ義務就學者ノ保護者及關係施設ノ長ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四十五條 義務就學者ヲ就學セシムル青年學校ニ於テハ義務課程ヲ設クベシ
前項ノ青年學校ニシテ第一條ニ掲グル各學年ノ最低時數ヲ超ユル時數ノ課程ヲ設クル場合ニ於テハ義務課程ハ之ヲ其ノ課程中ニ於テ編制スルコトヲ得

第四十六條 學校長ハ義務就學者ノ義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻ヲ定メ豫メ之ヲ其ノ保護者及使用者ニ通知スベシ前項ノ通知ハ每學年ノ始ニ於テ又ハ每學年二回若ハ三回二分制シテ之ヲ爲スベシ

已ムヲ得ザル事由アルトキハ學校長ハ第一項ノ日及時刻ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ保護者及使用者ニ通知スベシ

前三項ノ通知ハ第四十八條ニ規定スル青年學校手帳ニ記載スルノ方法ニ依ルヲ妨グズ

第四十七條 青年學校令第九條ノ規定ニ依リ出席ヲ停止シタルトキハ學校長ハ當該生徒ノ保護者及使用者ニ其ノ旨通知スベシ

第四十八條 青年學校ニ於テハ常時生徒ヲシテ青年學校手帳ヲ携帯セシムベシ
前項ノ手帳ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻並ニ其ノ變更
- 二 入學、轉學、退學及就學ノ免除又ハ猶豫ニ關スル事項
- 三 青年學校令第七條及第八條ノ規定ニ依ル科目免除並ニ同第九條ノ規定ニ依ル出席停止
- 四 教授及訓練科目別出席時數
- 五 其ノ他必要ナル事項

青年學校手帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十九條 義務就學者其ノ保護者ト居住地ヲ異ニスル場合ニ於テハ保護者ハ義務就學者ノ居住地ノ市町村長ニ左ノ事項ヲ届出ヅベシ

- 一 義務就學者ノ氏名、生年月日及居所
- 二 保護者ノ氏名及住所

前項ノ場合ニ於テ義務就學者ノ居住地ノ市町村長必要ト認ムルトキハ保護者ヲシテ本令ニ規定スル事項ニ關シ代理人ヲ置カシムルコトヲ得

第四章 教 員

第五十條 公立青年學校ニハ公立學校職員制ニ定ムル職員ノ外生徒ノ教育ヲ擔任セシムル爲指導員ヲ置クコトヲ得
指導員ハ地方長官之ヲ囑託ス
指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五章 設 置

第五十一條 青年學校令第二十二條ノ規定ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學則

第四十條 前四條ノ規定ニ依リ生徒ノ就學又ハ出席スベキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲ス場合ニ於テハ當該生徒ニ對シテモ就學又ハ出席スベキ旨ノ通知又ハ督促ヲ爲スベシ

第四十一條 市町村立青年學校長ハ每學年ノ終ニ於テ本科、本科ヲ置カザル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタル義務就學者ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ報告スベシ

第四十二條 道府縣立青年學校又ハ私立青年學校ニ入學シタル義務就學者本科、本科ヲ置カザル青年學校ニ在リテハ普通科ノ課程ヲ修了シタルトキ又ハ之ヲ修了セズシテ退學シタルトキハ學校長ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四十三條 義務就學者私立青年學校又ハ第三十二條第二號ノ施設ニ在學スルトキハ地方長官ハ關係市町村長ヲシテ當該施設ニ付其ノ出席情況ヲ調査セシムルコトヲ得

第四十四條 青年學校令第十二條第一號乃至第五號及第七號ノ一又ハ同第十五條ニ該當スル者其ノ事實止ミタルトキハ義務就學者ノ保護者及關係施設ノ長ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四十五條 義務就學者ヲ就學セシムル青年學校ニ於テハ義務課程ヲ設クベシ
前項ノ青年學校ニシテ第一條ニ掲グル各學年ノ最低時數ヲ超ユル時數ノ課程ヲ設クル場合ニ於テハ義務課程ハ之ヲ其ノ課程中ニ於テ編制スルコトヲ得

第四十六條 學校長ハ義務就學者ノ義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻ヲ定メ豫メ之ヲ其ノ保護者及使用者ニ通知スベシ前項ノ通知ハ每學年ノ始ニ於テ又ハ每學年二回若ハ三回ニ分割シテ之ヲ爲スベシ

已ムヲ得ザル事由アルトキハ學校長ハ第一項ノ日及時刻ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ保護者及使用者ニ通知スベシ

前三項ノ通知ハ第四十八條ニ規定スル青年學校手帳ニ記載スルノ方法ニ依ルヲ妨ゲズ

第四十七條 青年學校令第九條ノ規定ニ依リ出席ヲ停止シタルトキハ學校長ハ當該生徒ノ保護者及使用者ニ其ノ旨通知スベシ

第四十八條 青年學校ニ於テハ常時生徒ヲシテ青年學校手帳ヲ携帯セシムベシ
前項ノ手帳ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻並ニ其ノ變更

二 入學、轉學、退學及就學ノ免除又ハ猶豫ニ關スル事項

三 青年學校令第七條及第八條ノ規定ニ依リ科目免除並ニ同第九條ノ規定ニ依ル出席停止

四 教授及訓練科目別出席時數

五 其ノ他必要ナル事項

青年學校手帳ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十九條 義務就學者其ノ保護者ト居住地ヲ異ニスル場合ニ於テハ保護者ハ義務就學者ノ居住地ノ市町村長ニ左ノ事項ヲ届出ヅベシ

一 義務就學者ノ氏名、生年月日及居所

二 保護者ノ氏名及住所

前項ノ場合ニ於テ義務就學者ノ居住地ノ市町村長必要ト認ムルトキハ保護者ヲシテ本令ニ規定スル事項ニ關シ代理人ヲ置カシムルコトヲ得

第四章 教 員

第五十條 公立青年學校ニハ公立學校職員制ニ定ムル職員ノ外生徒ノ教育ヲ擔任セシムル爲指導員ヲ置クコトヲ得

指導員ハ地方長官之ヲ囑託ス

指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第五章 設 置

第五十一條 青年學校令第二十二條ノ規定ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

一 名稱

二 位置

三 學則

四 生徒概數

五 開校年月

六 經費及維持ノ方法

前項第一號、第二號及第五號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第一項第二號ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、校舍其ノ他ノ建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面ヲ添附スベシ

第五十二條 青年學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 科並ニ教授及訓練期間ニ關スル事項

二 教授及訓練科目並ニ教授及訓練時數ニ關スル事項

三 教授及訓練ノ時期及時刻ニ關スル事項ノ大要

四 課程ノ修了及卒業ニ關スル事項

五 入學、退學等ニ關スル事項

六 其ノ他必要ナル事項

前項第一號及第二號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號乃至第六號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ開申スベシ

第五十三條 青年學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

第五十四條 青年學校ノ設置者ヲ變更セントスルトキハ第五十一條第一項第一號乃至第四號及第六號ノ事項並ニ變更ノ事由ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ關スル場合ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ關スル場合ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第五十五條 青年學校令第二十一條ノ規定ニ依リ青年學校ヲ設置シタル法人ニ非ザル社團ニシテ代表者ニ變更ヲ生ジタル

トキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ

前項ノ社團ニシテ代表者ニ職缺ヲ生ジタルトキハ社團ノ關係者又ハ學校長ニ於テ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ

第五十六條 青年學校令第二十四條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ名稱及學則ヲ定ムベシ

第五十一條第二項及第五十二條中名稱及學則ニ關スル規定ハ前項ノ名稱及學則ニ之ヲ準用ス

第五十七條 青年學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具其ノ他必要ナル設備ヲ設クベシ

校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

第五十八條 青年學校ニ於テ備フベキ表簿ノ種類概ネ左ノ如シ

一 青年學校ニ關係アル法令

二 學則、學校日誌及備品臺帳

三 職員ノ履歷書及出勤簿

四 生徒ノ學籍簿及出席簿

五 其ノ他地方長官ニ於テ定ムルモノ

前項ノ表簿ノ保存期間ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第五十九條 位置ノ變更ニ非ザル校地ノ變更並ニ校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六十條 青年學校ハ學校、試驗場、講習所等ニ併設スルコトヲ得

第六十一條 青年學校ニハ土地ノ情況ニ依リ分教場ヲ設クルコトヲ得

第六章 學務委員

第六十二條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合及學區ノ學務委員ノ員數ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第六十三條 學務委員ハ左ニ掲グル事項ニ付市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管理者、區長並ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

